

2019年度 海外インターンシップ報告書

長野大学 社会福祉学部 社会福祉学科 2年

実習期間	2019年 8月 18日(日) ~ 8月 27日(火) 9日間
実習企業	Nikki fron (株)
実習地	タイ チョンブリー県

1. 実習目的

Chapter1 purpose

(目的) 会社の中でどのように社会人の方々が働いているか実情を知りたいから。タイ語講座や現地の人との交流するプログラムに魅力を感じた。タイでの日系企業がどのような役割を担っているか、海外事業展開をどのような理由で行っているか興味があるから。(内容) 言語の学習、現地の人との交流、日系企業がタイでの役割について勉強(経済面、文化面)、製造のラインで実際に働くインターンの報告等。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

NiKKi Fron 株式会社は、1896年に長野の麻問屋として創業した。その後、麻を材料としたパッキング材を大学との産学官連携により発明したことをきっかけに、商業から工業への転換を図り、現在の会社組織を設立した。創業からの歴史は120年を超える。現在は、半導体産業、自動車産業(クラッチフェーシングは国内の全自動車メーカーに採用され、高信頼製品が生み出されている。)両分野にフッ素樹脂や繊維強化プラスチックといった最先端の素材や加工部品、機械装置を提供する企業として成長した。活動拠点も本社長野以外に国内では東京に営業所、滋賀に工場、そして海外ではタイに工場を構え、グローバルに事業を展開している。

3. 実習 日程

Chapter3

Schedule

8月18日…タイ入国 バンコク県
 8月19日…プレゼンでの事業説明 工場見学 (成形工場、素材工場)をしながら各工程の説明
 8月20日… ①工程実習 製造ラインにて作業を行う。
 ↓ (製品検査、プレス工程、設計、生産技術説明)
 8月23日… ②タイ語講座 現地の人との交流為に基礎的なタイ語を学ぶ。
 ③ 研修まとめ(プレゼン作成など)
 8月24日… アユタヤ視察、寺院、遺産見学
 8月25日… バンコク視察、施設見学
 8月26日… プレゼン(発表)
 8月27日… 帰国 日本到着

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

8月19日にオリエンテーションが行われ、まずは企業の事業説明をお聴きした。タイに進出して事業展開している理由、関連企業及び取引先との関係性、各生産工程ごとの

製造方法等について説明を受けた。又、工場を見学させていただき、製造ラインや製造機械を実際に見ながら説明を受けた。

8月20～23日は工程実習を行った。製造工程に実際に入り、作業を行った。クラッチフェーシングのもとになる素材を丸め、機械にはめ込みプレス工程を行い、加工を行った。素材工場では製品のもとになる素材を成形可能な状態にローラーなどを用い切断していく。粉末を混ぜて乾かし、色付け、巻いてゴムを裁断、カットする流れを体験させて頂いた。品質管理工程として精密機械で製品の検査等を行った。直径の長さを0.01mmまで拘り検査の体験、硬度、穴の適性な大きさ等基準に基づいて、遊び、汚れなどないか確認した。トレースアビリティというシステムで管理されていることも重要なことだと知った。

8月24、25日は休日で24日はバンコクの北にある県のアユタヤに視察、建物見学を行った。ネット等で事前に調べていたことに肉付けしてより深い学習になった。世界遺産にも登録されているような歴史的な景観や寺院について知る事が出来た。歴史的建造物はその当時の高度な技術が用いられていてとても勉強になった。25日はバンコクでフォトジェニックなスポットで有名な寺院などに行き写真を撮った。日本よりも敷地が広く、日本では寺社仏閣の多くが落ち着いた色調であるのに対し、タイの建物は派手で、金色を多く用いていて、国の宗教観の違いについて考えさせられた。たくさんの方が観光で訪れていた。タイ料理も頂き日本人にとってタイの料理はとても辛くて日本の料理に比べて味ははっきりしていたり、コンビニの飲み物は砂糖が多く入っていたりと料理の面から日本との違いを知ることができた。タイの気候は亜熱帯気候なので蒸し暑く、又、生えている植物もヤシの木であったり南国気分を感じながら休日を過ごした。

8月26日はプレゼン発表があり、9日間の振り返りと成果を報告させて頂く場を設けさせていただいた。色々準備してきた事を発表してきたが、リサーチとテーマとの照合性、拘りを重要視して行えてるのかなど企業の方にプレゼン内容や方法の改善点等をご指摘いただいた。仕事では事前の下準備次第で変わっていくものだと思った。社会人になっても勉強を継続している人であることが求められると考えた。

5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

私がこの海外インターンシップを通して一番変化したことは、仕事に対する考え方である。私は、インターンシッププログラムによって実際に作業を行うことで、製品がどのように作られていくか学んだ。安定した品質の製品を、効率よく製造するために、作業が標準化されることを学んでいく経緯の中で企業にとって大事な品質を、どのように保証しているかという事を知ることが出来、日本人の国内外での日本製品のプロデュース、マーケティングについて大まかに勉強することが出来たことが収穫であった。

今回は自動車部品関係でのインターンであったが、他企業でも生かせるような設計、製造技術、営業などのさまざまな部門の業務内容について説明いただいた。関連する部署の機能を把握して、どのような職務があり、専門知識などの自身の適性も踏まえ将来の働き方についてイメージが出来た。自分の将来像を考えることが出来たのが私にとって収穫となっている。

最後に私はインターンのまとめを英語で行わせて頂いた。事前にテーマを設定して現地の方に質問を行い観点を明確にして、僭越ながら工程改善のアイデアの提案等、海外スタッフへ向けたプレゼンを体験した。課題設定を行い、情報を整理、解決、コミュニケーションを行うといった業務体験は将来的に役立つ学びであったと考える。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

今回の海外インターンシップを通して二つの課題が明確になった。一つは、もっと色々な人と話を出来るようになりたいという事である。今回、自分は現地スタッフとタイ語講座を通して覚えた言語を現地の人に実際に質問してみるという課題を出していただき、目標を立てて、コミュニケーションをとることを大切にしてきた。しかし、どうしてもスムーズにいかない所があった。日本語や私の拙い英語ではコミュニケーションが深くできない場面が施設見学、現地実習などであり、一緒にインターンを行っていたタイから日本に来ている学生は言語理解が可能な為作業理解も早かった。挨拶や基礎的な自分の紹介、質問以外でもっと相手のことを知りたいと思いながらも私は、話したいことがあっても通じないことに悔しさを覚えた。だからこそ残りの大学生活や休暇期間などでもっと自主的に語学を勉強していきたい。又、早い段階から大学生のうちに、グローバル社会での働き方や他国の異文化、価値観を生で体感できる機会を増やしていきたい。二つ目は、業種や企業についてもっと深く知ることである。今回の海外インターンシップではクラッチフェーシングという自動車の部品を作る関係の仕事について知ることが出来た。また、チョンブリーの工業団地は日本の企業だけではなく、海外の企業が多く見受けられた。隣の会社はスイス、中国などがあった。今まで知らなかった会社がたくさんあり、日本企業だけにとられることなく、海外の企業にも目を向けることも大切だと感じた。海外の時代の流れを掴んでいくことや、さまざまな文化を理解しようと努力していきたい。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

将来、何らかの形で海外に関わりたい人や外国語を話してみたい人は、きっかけ作りとして海外インターンシップに参加し、経験値を高めるのも良いと思う。実際に現地の人との交流を図ったり、一緒に働くことでたくさんコミュニケーションをとることができたり、日本と海外での生活の違いについて実感できたりするだろう。旅行や留学よりも現地の暮らしをプログラム次第で体験できるでしょう。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

今回の海外インターンシップを実習させて頂いた nikki fron (株) の望月課長、NFT の森山アドバイザーはじめ本当に様々な方々にお世話になりました。飛行機や宿泊施設の手配の準備や現地先でのアドバイスを頂いたおかげで、チョンブリーでのインターンシッププログラムを大きな問題なく実施することが出来ました。貴重な体験をさせて頂きましたことに心から感謝いたします。貴社のこれからのご活躍を心よりお祈り申し上げます。